

第9章

調査を通じての技術移転

9.1 技術移転計画

技術移転は本件調査の目的のひとつであり、円滑かつ効率的に技術移転が進められるよう十分に配慮がなされた。本調査団はインセプション・レポートでの計画案を協議し、それを基に、技術移転計画を作成した。

上位目標

「本件調査を通じて、個々のカウンターパートへの技術移転行う」ということが本調査の上位目標のひとつである。

技術移転の目的

カウンターパート側がそれぞれの分野において自ら総合水管理計画を策定し実行する能力を養うことが技術移転の目的である。

南スマトラ州水資源サービス計画ユニットの役割

本調査の下で技術移転計画の対象となるカウンターパートは南スマトラ州水資源サービス計画ユニットのメンバーである。計画ユニットの役割は、WATSAPで策定された流域水資源管理・プログラム（BWRM/P）を基とした総合水管理計画を実施することである。

技術移転のモードと方法

技術移転は、On-the-job training、技術検討会、レポート説明時やセミナーを通じて実施された。

目標設定と技術移転成果の評価

最初に、本調査団のカウンターパートとして達成されるべき目標について、調査団員、カウンターパート両者で協議が行われた。そして、毎月技術移転の成果の評価が本調査団、カウンターパートの双方によって行われた。目標は次の手順で決めた。計画ユニットのメンバーとして何が求められるか、本調査団のメンバーとして何が求められるかの確認、そしてその要求に対しての現時点での能力評価と本調査におけるカウンターパートとして達成されるべき目標の設定が行われた。

技術移転効果の評価

成果の評価は、毎月、調査団によるカウンターパートの評価、カウンターパートによる調査団の評価というように双方向で行われた。調査団による評価には、目標達成状況、目標達成のために考慮すべき事柄、問題点の抽出などが含まれる。カウンターパートによる評価には達成度合に対する自己評価、目標達成のための要求事項、調査団員が効果的な技術移転をどのように実施したか、あるいは実施しなかったの評価、問題点の抽出などが含まれた。

9.2 技術移転の総合評価

総合評価は以下のとおりである。

- 全ての関係者がこの調査での技術移転の重要性を認識しており、テクニカル・ミーティング、ステアリング・コミッティ・ミーティングにおいて技術移転に関わる問題点及びその解決法について議論された。
- 計画ユニットに属する技術移転評価の対象者9名中4名については、日々調査団とともに調査を実施することが困難であった。従ってその4名のカウンターパートについてはOn-the-job trainingが実施されなかった。その理由は、計画ユニットは基本的に兼務であり、所属元機関の業務が多忙であったためである。
- 本調査へのカウンターパートの参加を妨げるもう1つの要因はプランニング・ユニットのメンバーが、IWIRIPの河川流域水資源計画のもとでのKIMPRASWIL水資源総局による能力開発プログラムへの参加を要請されていたことである。しかし、これらの能力開発プログラムはプランニング・ユニットのメンバーのために必要かつ有益であるため、我々はそれを含めた包括的な効果を考慮した。
- 総括して、6名のカウンターパートに好結果で技術移転を行うことができた。技術移転の分野は、(i) 総合水管理、氾濫原管理、都市水環境管理、(ii) 灌漑維持管理技術、水利用管理、(iii) 住民参加による管理計画の策定、(iv) 3名のカウンターパートへのGISである。
- 将来の河川流域管理計画策定のためには、GISデータベースが最新情報に更新され、またそれが利用されるべきであることから、この分野の技術移転は重要であった。GIS担当の調査メンバーが、対象者である水資源サービスの3名のカウンターパートに、1月31日から2月18日の毎日4時間、技術移転指導を実施した。その間、興味を持ち、自主的に参加したメンバーもあり、この技術移転指導は成功した。また調査団が滞在していない13月から6月までの間に、為すべきホームワークが参加したカウンターパートに与えられた。調査団は、第3次現地調査時にホームワークの成果を確認した結果、当3名カウンターパートのGISの理解レベルは満足のいくものであると判定した。
- 第3次現地調査時に、技術移転の一貫としてドラフト・ファイナル・レポートセミナーが開催された。インドネシア側のカウンターパートは、マスター・プランの各セクターの発表を行った。各カウンターパートのマスター・プランの理解度は満足のいくものであると判定された。